

クリタマバチ

クリの枝先が丸く膨らみ、虫こぶになる。新しい虫こぶは小さな葉が数枚つき、内部に白いウジムシ（幼虫）が数頭いる。幼虫は最大長約3mm。古い虫こぶは小さな穴が開き、枯れて枝先に残る。

ときに多発することがある。



1 (上) . 虫えい, 1970/10, 函館市.



2 (右) . クリ被害木, 1970/10, 函館市.

【学名】 *Dryocosmus kuriphilus* 【分類】 ハチ目 (Hymenoptera), タマバチ科 (Cynipidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, 中国, 北米.

【生態】

年1世代。成虫の羽化時期は7月下旬から1ヶ月ほど続き、ピークは8月上中旬である。成虫は虫こぶ（虫えい）に穴を開けて出てくる。雌だけで単為生殖を行う。卵は冬芽に産卵される。冬芽内で若齢幼虫で越冬する。幼虫の寄生している冬芽は翌春の5月以降に急速に膨らみ虫えいになる。7月上中旬に虫えい内で蛹になる。

【被害と防除】

北海道では1964年に道南で発生が初めて確認された。その後、道央まで発生が及んでいる。

被害を防ぐには抵抗性の品種を植栽する。寄生性天敵の導入による防除も行われ、好結果が得られている。

【文献】

- *1973. 館和夫, 上条一昭. 道南地方のクリタマバチの被害. 光珠内季報, 18: 10-13. (北海道での生態, 被害)
- *1975. 上条一昭, 館和夫. 北海道におけるクリタマバチの分布と被害の経過. 北海道林業試験場報告, 13: 27-35. (北海道での生態, 被害)
1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真) .
1994. 守屋成一. クリタマバチ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集, 森林昆虫, 総論・各論: 511-513. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 天敵, 防除.)
- *1997. 館和夫. 道内におけるクリタマバチの天敵放飼. 森林保護, 262: 41-42. (天敵による防除結果)

*の文献は独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場ホームページの「独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

クリタマバチ tamabach/kuritama/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/31-2002/1/5.

kobu.JPG, higai.JPG

「写真1-2」 東浦康友, 北海道立林業試験場, 1970.